

（様式 1）実施報告書

1 補助事業者情報

（1）事業者団体情報

団体名	神戸市
-----	-----

（2）都道府県・政令指定都市との連携（申請者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人又は団体の場合のみ記載）

--

2 事業の概要

1. 事業の名称	神戸市における地域日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	令和3年4月1日～令和4年3月10日
3. 事業実施前の現状と課題	神戸市には、約48,600人（平成31年6月）の外国人が居住しており、近年、ベトナム人の急増などにより過去3年間で約4,000人増加している。神戸市においては、40年ほど前から日本語教室での日本語支援が行われており、令和元年12月に立ち上げられた日本語教室により、市内9区のすべてに日本語教室が存在することとなり、現在25か所の日本語教室の活動を認識している。また、神戸国際協力交流センター（以下、KIC）でも34年前からボランティアによるマンツーマンの日本語支援を実施している。上述の日本語教室やKICでの日本語支援は、すべてボランティアによるものである。これまで、神戸市における地域日本語教育の公的な支援はKICが担っていたのだが、日本語教育の専門的知識を持つ者がいなかったため、市内全域の日本語教育にまで目を配ることはなかった。 令和元年11月1日現在の国内の日本語学習者数は277,857人で、そのうち生活者としての外国人を対象にした学習機関と考えられる国際交流協会と任意団体等に通う学習者数は69,209人であり、国内在留外国人の約2.5%にあたる。神戸市内の地域日本語教育の場合、令和元年5月、神戸市内の地域日本語教室を対象にした調査の結果、回答のあった16の地域日本語教室に通う日本語学習者数は839人であり、市内在留外国人数の約1.7%であり、国内の割合よりさらに低いことがわかった。どの程度が妥当かは定かではないが、神戸市の定住者・家族滞在者・永住者の配偶者の数が約7,000人なので、たとえばそれらの人たちが日本語学習をすると14%になる。7,000人のすべてが日本語学習を必要としていないにしても、未だに学習の機会にたどり着いていない人、すなわち潜在的日本語学習者が少なからず存在していることが推測できる。そのため、まずは市内の潜在的学習者を掘り起こすことが課題となっている。 同時に、掘り起こした潜在的学習者に対応していくため、受け皿としての神戸市の地域日本語教育体制の規模を拡充するとともに、さまざまな潜在的学習者のニーズに対応できる利便性・柔軟性の高い体制とすべく、日本語学習拠点の拡充やプログラムの拡充も必要となっている。 以上のことから、神戸市では3年をかけて、まずは市内の地域日本語教育の体制を整備する。 1年目は、総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーターを配置し、まずは上述の潜在的学習者を掘り起こす目的で、これまでは地域日本語教育に関わっていなかった団体や機関などを新たな要素に加えたネットワークの構築に取り組んだ。 次に、学習者のレベルに応じた適切な日本語学習の機会を提供するために、行政が担うべき公的言語保障としての日本語支援とボランティアによる日本語支援を分けて考え、それぞれの特質を活かした支援を実施

するため、行政が担うべき取り組みとして有資格の日本語教師による初級日本語クラスの実施、ボランティアのための相談業務を実施した。

また、これまでは関係性が薄かった市内の日本語教室への訪問を行うことで、教室が抱える問題や行政への要望を知ることができた。1年目は11の日本語教室を訪問した。1月には、まだ訪問をしていない教室も含め13教室の20名が参加する「神戸市内日本語教室連絡会議」の実施に至り、今後の市内の地域日本語教育の底上げにつながった。

今後の課題としては、潜在的学習者を掘り起こすためのネットワークの要素間の連携の強化、有資格の日本語教師の確保、ボランティア育成のための取り組みが残った。また、年度末に夜間中学校から生徒の日本語指導に関する相談があり、次年度の取り組みとして「夜間中学教員のための日本語教育研修」と「夜間中学の生徒のための有資格の日本語教師による夏季日本語教室」を行うこととなった。

そこで2年目は、新型コロナの感染拡大により大幅な変更を余儀なくされたものの上記の課題に取り組んだ。まずは、特に外国人就労者を中心とした潜在的学習者を掘り起こすネットワーク強化のため、市内在住外国人関係機関を集めた「市内日本語学習指針に関する連絡協議会」を開催するとともに、外国人雇用企業を訪問してヒアリング調査を実施した。また、有資格の初級日本語クラスは新型コロナの感染の度合いに合わせてオンラインのみの実施や、対面と両方での実施とし、6月開始クラスから学習者の募集数を大幅に増加するため登録講師の数を増やした。この取り組みにより、これまで留学生への日本語教育しか経験してこなかった教師たちのいわゆる学校型の授業では地域型の学習者への対応が困難であることが、教師たちの授業報告や授業見学をした総括コーディネーターの記録から見えてきた。今後の課題として、地域型の学習者に対する質の高い授業を行える教師の確保と合わせて、現在の登録講師への地域型学習に関するサポートが浮上してきた。さらに、ボランティアの育成については、コロナの影響により、オンライン支援のためのオンライン養成講座を実施したほか、前年度末に計画した夜間中学への2つの取り組み（教員研修、日本語教室）は、新型コロナの感染の拡大の合間を縫って実施することができた。

また、本事業では、初年度より自己主導型学習を目標に初級クラスやボランティア養成講座を実施してきたのだが、この2年では自己主導型学習を可能とするためのポートフォリオのような学習評価ツールを作成できなかった。

加えて、地域日本語教育体制の構築を目標とした3か年にわたる本事業の集大成として、構築した体制の今後の方向性を示し、持続していくため、市内の地域日本語教育に関わる人が共有し、その拠り所とすべき、神戸市における地域日本語教育に関する基本方針を作成しなければならない。

以上から、3年目は、これまでの2年間の取り組みに加え、以下の課題の解決に向けて取り組む。

- ① 潜在的日本語学習者を掘り起こすためのネットワークの強化・拡大
- ② 様々な日本語学習者に対応する利便性・柔軟性の高い日本語学習環境・プログラムの提供
- ③ 初級クラスを担当する有資格の日本語教師の成長を促すための取り組み
- ④ 自己主導型学習における学習評価のツールの作成
- ⑤ 整備した体制を持続するための基本方針の作成

4. 目的

日本語が十分でないために地域社会への参加をためらっている外国人やその家族などの言語的マイノリティーが自分の声を持てるようにすることが本事業の目的である。それらの人々が日本語学習を希望する際、自分のライフスタイルに合った日本語学習の機会を選択できるよう多様な日本語学習の場を提供する。そのためには、行政の役割である保障としての日本語支援と地域日本語教室の特性を活かした社会参加に向けた日本語支援という役割分担についても合意形成していく。

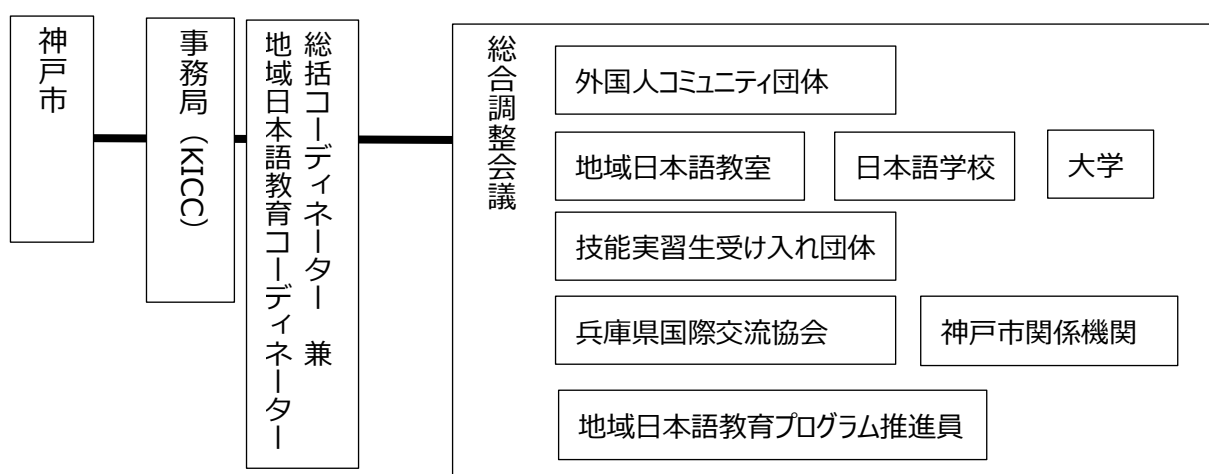
また、外国人側だけに日本語学習の苦勞を強いるのではなく、多様な日本語が通じる社会を目指すという意味で、地域日本語教育の存在を知らない市民への周知も行っていく。

さらにこの3年間の取り組みを持続可能なものにするために、3年目である今年度は「神戸市における地域日本語教育の基本方針」を掲げ、市内の地域日本語教育に参加する人々が同じ方向性を持てるようにする。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制(図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)

神戸市では、日本語教育事業を公益財団法人神戸国際コミュニティセンター(KICC)で行っているため、同センターに事務局を設置し、事業は総合調整会議での協議を経て進めた。



《事業の中核メンバー》

	氏名	所属	職名	役割
1	尾形 文	神戸松蔭女子学院大学	非常勤講師	総括コーディネーター 地域日本語教育コーディネーター
2	枝松 奈美	神戸松蔭女子学院大学大学院	大学院生(令和5年3月終了予定)	地域日本語教育プログラム推進員
3	神夏磯晴香	早稲田大学	非常勤講師	地域日本語教育プログラム推進員
4	井上 貴	神戸国際協力交流センター	運営課長	

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・神戸市内の地域日本語教育の体制を整えるために、市内の大学、日本語学校、日本語教室とのネットワークを構築した。具体的には、地域の日本語教室への訪問をするとともに、日本語教室連絡会議を開催し、人材やノウハウについての意見交換や情報の共有をした。また、潜在的日本語学習者を掘り起こすために、区役所や外国人支援組織・団体、夜間中学等との連携を構築するとともに、市内外国人就労者の関係機関との連携を強化した。
- ・兵庫県内の11の日本語教育関係機関（行政、教育委員会、大学、日本語学校、NPO、任意団体等）で構成する「ひょうご日本語ネット」の実務者会議に出席し、日本語教育に関する情報交換を図り体制づくりに活かした。

4 令和3年度の事業概要

1. 令和3年度の実施目標

本事業の主役は日本語学習を必要とする人であることを忘れることなく、彼ら、彼女らがより良い日本語学習の機会にたどり着き、質の高い日本語学習ができるよう以下の目標を設定する。また、地域で日本語を学ぶ人の中には日本語教室などでの学習を継続したくても家族や仕事の都合で断念せざるを得ない人たちも少なくない。途中で学習機関を離れた場合でも、学習者が自分の生活に合わせて日本語学習をするための能力を育むことも日本語支援の役割である。本事業では、適切な役割分担の下に地域日本語教室とも連携して、さまざまな日本語学習希望者に対応できる利便性・柔軟性の高い地域日本語教育体制を構築すると同時に、学習者が一人でも日本語学習ができるよう自己主導型学習を推進する。また、3ヶ年計画の3年目ということで、本事業が持続するための取り組みとして基本方針を作成する。

- (1) この2年間で築いたネットワークを活用し潜在的日本語学習者の掘り起こしをさらに進める。
- (2) 以下の機能をもつ学習評価のツールを作成する。
 - ① 学習者が日本語学習において新たな自己の価値を発見し、その後の学習を継続するモチベーションとなるもの。
 - ② 自己主導型学習を促進するための仕掛け
 - ③ 学習記録（別の学習機関に移った場合にもそれまでの学習履歴がわかる）
- (3) 様々な日本語学習者に対応する利便性・柔軟性の高い日本語学習環境・プログラムを提供する。
- (4) 神戸市内に自己主導型学習を広める
- (5) 日本語教育人材を育てる
- (6) 神戸市における地域日本語教育を持続可能なものにするための基本方針を作成する。

2. 実施内容

【必須項目】

（取組1）総合調整会議の設置

①構成員

	氏名	所属	職名	役割
1	今井 俊幸	神戸市海外ビジネスセンター	所長	市内の企業への外国人就労に関する情報提供
2	鳥本 敏明	日本ベトナム友好協会兵	常任理事	ベトナム人の就労

		庫県連		状況提供
3	安井 裕司	日本経済大学	教授	市内の大学の留学生の状況提供
4	奥田 純子	コミュニケーション学院	学院長	市内の日本語学校、及び日本語教育に関する情報提供
5	高西 宏和	中央区まちづくり課	課長	区内の外国人動向やつなぐ仕組みの構築についての助言
6	辻 敏彰	教育委員会学校教育課	指導主事	外国人児童及びその保護者の状況提供
7	松野 孝行	東灘日本語教室	共同代表	日本語教室の状況
8	遠藤 知佐	兵庫県国際交流協会 多文化共生課	日本語教育指導員／総括コーディネーター	地域日本語教育に関する情報
9	奥 優伽子	NPO 法人神戸定住外国人支援センター	日本語コーディネーター	日本語教室の状況
10	ズオン ゴック ディエップ	ベトナム夢 KOBE	代表	市内ベトナム人の状況
11	林 文勇	(公財) 国際ロータリー第2680 地区 米山奨学生学友会 (兵庫)	副会長	外国人の就労や企業の支援の状況
12	荒井 秀行	阪神金属協同組合	事務局長	市内の企業への外国人就労に関すること
13	永野 喜久	東灘区まちづくり課	課長	区内の外国人動向の把握、つなぐ仕組みの構築
14	丹沢 靖	神戸市国際課	課長	行政的見地からの意見

②実施結果

実施回数	2 回
実施スケジュール	第 1 回 8 月 24 日 (火) 10 : 00～12 : 00 Zoom ミーティングによるオンライン 第 2 回 2 月 22 日 (火) 10 : 00～12 : 00 Zoom ミーティングによるオンライン

主な検討項目	第 1 回 出席人数：19 名（委員 12 名、事務局 7 名） ① 令和 3 年度の本事業の実施計画について ② 拠点再編成後の KICC 日本語教育の実施について 上記、①と②のテーマを中心にしながらもさらに話題を広げて活発な意見交換が行われ、本事業のために有益な会議だった。 第 2 回 出席人数：19 名（委員 12 名、事務局 7 名） ① 令和 3 年度の本事業の実施報告について ② 令和 4 年度の本事業の事業計画について 上記①については、事業についての外部からの評価を得る機会となった。また、②についても立場の異なる方々からの意見を得ることができた。さらに、技能実習生受け入れ団体や大学から、技能実習生や留学生の現状についての情報提供があり、今後の事業の方向性のヒントを得ることができた。
（取組 2－1）総括コーディネーターの配置	
文化庁主催の「地域日本語教育コーディネーター研修」受講者の中から採用したコーディネーターが、昨年度に引き続き総括コーディネーターとしての業務にあたった。	
（取組 2－2）地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組	
地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。 総括コーディネーターと兼務 地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【()】	
（取組 2－3）調査・推進計画策定コーディネーターの配置	
【重点項目】	
（取組 3）都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組	
その 1 【地域日本語教室の訪問】 市内の 24 教室の内、今年度は 4 教室を訪問し、教室の活動状況などについて聴いた。過去 3 年間に訪問した教室は、は以下のとおりである。 令和元年度：11 団体 令和 2 年度：2 団体 令和 3 年度：4 団体 その 2 【地域日本語教室連絡会議の実施】 1 回実施 ・実施日時：7 月 16 日（金）14：30～16：30 ・場所：KICC 会議室と Zoom ミーティングのハイブリッド	

・出席者数：24 名

内訳・・・日本語教室 15 名（来館 9 名、オンライン 6 名）

事務局 9 名

2 回目は、当初 2 月末に実施予定だったが、3 月 29 日に変更した。

その 3 【市内日本語教室への補助】

7 団体が申請し 5 団体に交付した。

（取組 4）市区町村への意識啓発のための取組

各区のまちづくり課や生活支援課などに初級日本語クラスのチラシを送り初級クラスの広報に協力してもらうことで、職員が外国人住民の日本語学習の重要性を意識することにつながった。

（取組 5）日本語教育人材に対する研修（研修受講者数（実人数）：192 人）

1. 日本語ボランティアのための養成講座

（1）地域日本語教室コーディネーター研修

✧ 実施日時：5/18、6/1、6/15、6/29 の 13：00～16：00

✧ 実施時間数：1 回 3 時間で 4 回、全 12 回

✧ 講師：総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文

✧ 対象：日本語教室でコーディネーターをしている方、または今後する方

✧ 形態：対面

✧ 受講人数：3 名（3 回以上出席した 3 名に修了証を渡した）

✧ 内容

第 1 回

✧ 地域日本語教室コーディネーターって何？～役割や能力について考えてみましょう～

✧ 次回までの宿題：自分の教室の問題点を洗い出す

第 2 回

✧ クリティカルシンキングを使ってみましょう！～課題を決めて問題解決へ～

✧ 次回までの宿題：問題解決の発表準備

第 3 回

✧ 問題解決のプロセスを発表しましょう！

✧ 次回までの宿題：自分の発表を振り返る

第 4 回

✧ アサーティブな人を目指しましょう！～相手も自分も大切にするコミュニケーション～

（2）日本語ボランティアのためのブラッシュアップ講座

①「コミュニケーションってなに？」

✧ 実施日時：8/27、9/3、9/10、9/17 の 13：30～16：30

✧ 実施時間数：1 回 3 時間で 4 回、全 12 回

✧ 講師：総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文

◇ 対象：日本語ボランティアをしている方／日本語ボランティアの経験がある方

◇ 形態：対面

◇ 受講人数：16 名（3 回以上出席した 15 名に修了証を渡した）

◇ 内容

第 1 回

◇ コミュニケーションってなに？

第 2 回

◇ 自分の話し方の癖を知ろう！

第 3 回

◇ アサーティブ・コミュニケーション①～相手も自分も気持ちよく！～

第 4 回

◇ アサーティブ・コミュニケーション②～傾聴することの大切さとは？～

②「学校からのお便りを「やさしい日本語」にしよう！」

◇ 実施日時：12/15、12/22、1/12、1/19 の 13：00～16：00

◇ 実施時間数：1 回 3 時間で 4 回、全 12 回

◇ 受講料：2,000 円

◇ 講師：神戸大学名誉教授 水野マリ子氏

◇ 対象：日本語ボランティアをしている方／日本語ボランティアの経験がある方

◇ 形態：対面

◇ 受講人数：5 名（3 回以上出席した 4 人に修了証を渡した）

◇ 内容

第 1 回

◇ 「やさしい日本語」の基礎

第 2 回

◇ 第 1 回に続き「やさしい日本語」の基礎

第 3 回

◇ 学校の手紙を読もう

第 4 回

◇ 学校のお便りの翻訳実践

（3）出前講座

①南須磨日本語教室

◇ 実施日時：7/6 の 13：30～15：30

◇ 実施時間数：2 時間

◇ 受講料：無料

◇ 講師：総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文

- ◇ 対象：南須磨日本語教室の日本語ボランティア
- ◇ 形態：対面
- ◇ 受講人数：10 名
- ◇ 内容
- ◇ 神戸市の地域日本語教育体制整備事業について
- ◇ 日本語教育史からみる自己主導型学習

②神戸定住外国人支援センター

- ◇ 実施日時：9/19 の 13：30～15：30
- ◇ 実施時間数：2 時間
- ◇ 講師：総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文
- ◇ 対象：日本語ボランティア経験者/日本語ボランティアに興味がある人
- ◇ 形態：対面
- ◇ 受講人数：13 名
- ◇ 内容
- ◇ 神戸市の地域日本語教育体制について

③大阪樟蔭女子大学

- ◇ 日時：7/30 9：00～10：30
- ◇ 形態：Teams によるオンライン
- ◇ 講師：総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文
- ◇ 受講者：39 名
- ◇ 内容：学芸学部国際英語学科「日本語教育学概論」履修の日本語教師を目指す学生に対して、自分の経験や思いを話し、学生からの質問に答えた。

(4) 夜間中学教員対象日本語教育研修

- ◇ 開催日時：5 月 20 日（木）、21 日（金）13：30～15：00
- ◇ 開催場所：神戸市立丸山中学校西野分校（夜間中学校）
- ◇ 時間：全 3 時間
- ◇ 講師：総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター 尾形文
- ◇ 受講者数：11 名
- ◇ 内容

第 1 回：本物を取り入れる工夫

第 2 回：何を捨てて何を残すかを考える

(5) 神戸市の地域日本語教育を考える会

神戸市で 10 年以上日本語教室に関わっている 5 名に参加してもらい、各自の経験を共有し、これからの

神戸市の地域日本語教育について話し合い、この会としての考えをまとめた。また、各自が経験を語る中から、次年度「ボランティア物語」と「学習者物語」を冊子にまとめたかどうかという案も出た。

✧ 実施日時：1回2時間で6回実施

①12/2 (13:00～15:00)、②12/7 (10:00～12:00)、③1/11 (10:00～12:00)、
④1/18 (10:00～12:00)、⑤1/25 (10:00～12:00)、⑥3/1 (10:00～12:00)

✧ 参加者：5名

✧ ファシリテーター／アシスタント：尾形文／枝松奈美

✧ 話し合った内容

第1回 (12/2)：ファシリテーターから会の主旨を説明した。

主旨・・・神戸市で長年ボランティアとして地域日本語教育に関わってきた人が、どういう視点で見
てきたのか、どういう関わり方をしてきたのかを共有し、神戸市の地域日本語教育がどう
あるべきかを話し合う場としたい。

この日の話し合い・・・各自のボランティアとしての経歴を話した。

各自が関わっている教室の現状について述べた。

文型積み上げからの脱却について意見交換した。

第2回 (12/7)：日本語教室と行政の関係、それぞれの役割について話した。

役割を簡単に分けることは難しいだろうが、行政の仕事には限界があるので、日本語教室が自
由に動けるといふところあたりから考えてみようということになった。

行政・・・法律などに沿った役割。

日本語教室・・・参加者たちが自分たちの教室の経験をもとに日本語教室でできることを出し合っ
た。(就労のための日本語支援、生活支援、地域の人との関り、就職支援、母国
での経験を活かし毎回の日本語学習を終えたあと借りた畑での野菜作り、など)
居場所としての日本語教室を理想とするなら、日本語を教えるのではなく知り合
いを作るという目的を掲げるのがよいのでは。看板を「〇〇日本語教室」としてい
るからボランティアも日本語を教えたがるのではないか。「友達作ろう」などが看
板に入ればボランティアの活動も変わるかも、などという意見が出た。

第3回 (1/11)：ボランティア物語を書くことになった

- ・ファシリテーターが自身の教師物語を書いて経験を話し、ボランティア物語を書いてみてはど
うか参加者に勧めた。参加者たちはおもしろそうだとすることで書いてみることになった。
- ・ボランティア物語をこの会に参加している自分たちだけが書くのではなく、他のボランティア
にも書いてもらってはどうか。学習者が休んだりしてもボランティアを続けている人がいる
が、何のために続けているのか、その人を動かしているのは何かを知りたい。
- ・次年度100名のボランティア物語を集めて、冊子を出そう！

第4回 (1/18)：参加者の一人が書いたボランティア物語から派生して、地域日本語教育の現状やポ
ートフォリオについて意見が出た。

- ・420時間養成講座が以前は日本語教師への入り口だったが、今は定年後に受講する人が増えて

いるようだ。講座終了後は日本語教室でボランティアをする。

- ・文化庁の Can-do リストを見ていたら「～できる」が並んでいるけれど、中国帰国者などは高齢化しているので、これからは「Can-not」が増えていく。「～できる」は、今から社会で生きていくという印象を受ける。だから高齢者には煩わしいものなのでは。今までやってきたことなどを残せたらいいのではないだろうか。
- ・日本語教室で学習をしていた人が将来老人施設に入居したとき、あまり日本語ができなくても、施設のスタッフがポートフォリオを見て、この人はこういうことをしてきたのか、こんなことを話すのが好きなのかということを知ってもらえる。←尊厳をもって接してくれる。
- ・大企業が日本語能力を重視しがち←企業は採用基準が必要である。だから JLPT（日本語能力検定試験）を基準にしているのだが、JLPT で個人の日本語能力のすべてが評価されているわけではないことを企業は知らない。そこで、就職活動の際にポートフォリオを提示して、日本語でどのくらいのコミュニケーションができるのか、読み書き能力はどの程度なのかを企業側に伝えられれば、企業にも外国人にもご利益がある。また、ポートフォリオにより日本語以外の語学の学習履歴を提示できれば、企業が想定していなかった活用方法にも企業側が気づくであろう。

第 5 回（1/25）：この日も参加者が書いたボランティア物語を読んだあと、「ボランティアとは何か」が話し合われた。

- ・「ボランティア」ということばを日本で耳にしなかった頃、「困っている人を助きたい」という一心で教室運営に関わってきた。学習者が少ない時、活動できないボランティアに気を遣うときがあるが、それはおかしいと思う。
- ・ボランティアは行為であり、無償ということではない。
- ・行政とボランティアがうまく折り合い、両方が納得できるものができたらいいと思う。ボランティアは趣味ではない。
- ・教室を始めた 20 年前はボランティア精神のほうが強かった。しかし、近年ライフステージの一つとして最終的にボランティアがあるような感じになってきている。
- ・「ボランティア」ということばが流行りだし、ボランティアをしなければ！という思いがボランティアという行為に向かわせている。みんなが行くから私も行かねば！みたいな。イベントになっている。「困っている人がいるから」とボランティアをしている人が少なくなってきたように感じる。
- ・ある学習者が新型コロナに感染したとき、教室の人全員が知恵を出し合って対応した。日本語を教えているだけではなく+αのことをしている。教室のこのような側面を行政は知ってほしい。
- ・以前、KICC から支援情報などを教室に流してくれていたのはよかった。我々を認めてくれているようだった。よかったことはよかったこととして行政にフィードバックしたほうがいいが、教室連絡会議などと言っても、あまり伝わらないようだ。
- ・420 時間の養成講座を修了して日本語学校で文型積み上げしか経験のない日本語教師には、多様な生活者への日本語支援は困難だと思ふことがある。逆に、地域日本語教室で支援をしていた人が、専門性を身につけて日本語教師になったほうがいいのかもかもしれない。

第 6 回（3/1）：これまでの 5 回で話し合った内容を整理し、次年度に向けて、学習者物語とボランティア物語の発行などについて話し合った。

(6)「地域型メルマガ」の配信

令和3年2月末の登録者：84名

今年度は1回配信した。

①12月27日 第5便配信

「声を聴く」

(7) 日本語ボランティアの相談業務

人数：6名（来館：4名、電話：2名）

主な相談内容

◇ どのような教材を使ってよいかわからないという相談

・この質問は複数のボランティアから受けた。

←自分が担当している学習者にとって、どのような教材がいいのか迷っているというボランティアが多くいる。そのようなボランティアには、学習期間と教材のボリュームが合っているか、学習者の学習希望と合っているか、学習者がその教材を気に入るかなどを、学習者と一緒に考えながら教材を選択するようアドバイスしている。

◇学習に身が入らない学習者に対する支援について

←教室に来る目的、日本語を学ぶ目的とそこにたどり着くための目標設定など明確にするための時間を取るようアドバイスした。

◇ 教室立ち上げに関する相談

・現在、日本語教室でボランティアをしているが、もっと自由に日本語学習支援の活動をしたいと思うようになってきた。複数の学習者と複数のボランティアがグループになり、最新のニュースを題材に意見交換をするなど、ボランティアが教える側に立つという方法ではない教室を立ち上げたい。

←まだ構想段階ということだったので、具体的な活動デザインのためのアドバイスをした。また、立ち上げる際には他のボランティアにも声を掛けたり学習者を集めたりすることに協力するので、その際には再度来館してほしい旨伝えた。

◇ KICC 登録講師になりたい人からの相談

←KICCに登録するための要件などの説明と、どのような授業をしているかを説明した。また、初級クラスの授業見学も促した。

(取組6) 地域日本語教育の実施取り組んだものに○

【○】都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【 】日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

実施箇所数

3ヶ所（東部、中央、西部）と

受講者数

548人

	オンライン	(実人数)	
活動 1	【名称】 KICC 初級日本語クラス（年度後半より子どもの同伴可とした） 【目標】 - 自分の学習目的を知り、長期・中期・短期の目標を設定し、自分の周りにある学習リソースを活用しながら学習を進め、学習の振り返りができるようになる。 - 次のクールには次のレベルに上がる。 【実施回数】 1,840 回（1 回 2 時間） @三宮にほんごプラザ（529 回） 5 月クラス：23 回×4 クラス＝92 回 7 月クラス：23 回×5 クラス＝115 回 10 月クラス：23 回×4 クラス＝92 回 12 月クラス：23 回×5 クラス＝115 回 2 月クラス：23 回×5 クラス＝115 回 @KICC（新長田）（121 回） 10 月クラス：23 回×2 クラス＝46 回 12 月クラス：23 回×2 クラス＝46 回 2 月クラス：9 回×1 クラス＝9 回 20 回×1 クラス＝20 回 @御影にほんごプラザ（155 回） 10 月クラス：23 回×3 クラス＝69 回 12 月クラス：23 回×2 クラス＝46 回 2 月クラス：20 回×2 クラス＝40 回 @オンライン（Zoom ミーティング）（1035 回） 5 月クラス：23 回×9 クラス＝207 回 7 月クラス：23 回×9 クラス＝207 回 10 月クラス：23 回×10 クラス＝230 回 12 月クラス：23 回×11 クラス＝253 回 2 月クラス：23 回×6 クラス＝138 回 【受講者数】 507 人（3 ヶ所+Zoom ミーティング） @三宮にほんごプラザ（138 人） 5 月クラス：29 人 7 月クラス：32 人 10 月クラス：25 人 12 月クラス：26 人		

	2 月クラス : 26 人 @KICC (新長田) (12 人) 10 月クラス : 9 人 2 月クラス : 3 人 @御影にほんごプラザ (15 人) 10 月クラス : 11 人 2 月クラス : 4 人 @オンライン (Zoom ミーティング) (342 人) 5 月クラス : 73 人 7 月クラス : 81 人 10 月クラス : 75 人 12 月クラス : 59 人 2 月クラス : 54 人 【実施場所】 ① 三宮にほんごプラザ (神戸市中央区) ② KICC (神戸市長田区) ③ 御影にほんごプラザ (神戸市東灘区) 【受講者募集方法】 KICC のホームページ／SNS、チラシ配布 (地域日本語教室、9 区の区役所、神戸市関連機関、児童館、教育機関、ハローワーク、外国人コミュニティの SNS、外国人雇用企業など) 【内容】 開催レベル (対面、オンラインとも) 初級 1 : A1 レベル『まるごと入門 A1 かつどう』 初級 2 : A2 前半レベル『まるごと初級 1 A2 かつどう』 初級 3 : A2 後半レベル『まるごと初級 2 A2 かつどう』 授業の進め方 ・ 23 回の授業をチームティーチング ・ 授業後には報告書をメールで一斉送信し、学習者の様子や授業の進捗を他のクラスの講師、コーディネーター、推進員で共有した。 学習の評価方法 ・ 学習者による自己評価 ・ 『まるごと』の Can-do を活用した。 【開始した月】 5 月 【講師】 KICC 登録日本語教師 25 人 【関係機関との連携】 なし
--	---

	標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 2	【名称】 あいうえお（年度後半より子どもの同伴可とした） 【目標】 初級 1 クラスに入る前に、ひらがな、カタカナが読めるようになる。 【実施回数】 90 回（1 回 2 時間） 5 月クラス：20 回×1 クラス＝20 回 7 月クラス：20 回×1 クラス＝20 回 10 月クラス：20 回×1 クラス＝20 回 12 月クラス：15 回×1 クラス＝15 回 2 月クラス：15 回×1 クラス＝15 回 【受講者数】 18 人（18 人×1 ヶ所） 5 月クラス：3 人 7 月クラス：4 人 10 月クラス：2 人 12 月クラス：4 人 2 月クラス：5 人 【実施場所】 三宮にほんごプラザ（神戸市中央区） 【受講者募集方法】 KICC のホームページ／SNS、チラシ配布（地域日本語教室、9 区の区役所、神戸市関連機関、児童館、教育機関、ハローワーク、外国人コミュニティの SNS、外国人雇用企業など） 【開始した月】 5 月 【講師】 KICC 登録日本語講師 5 人 【関係機関との連携】 なし 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 3	【名称】 読み書きクラス 【目標】 日常生活でどんなものを書くのかを自覚し、その中から自分に必要な文書を選択し、それが書けるようになる。 【実施回数】 19 回（1 回 2 時間） 10 月クラス：10 回×1 クラス＝10 回 2 月クラス：9 回×1 クラス＝9 回 【受講者数】 8 人（8 人×1 か所） 10 月クラス：5 人

	2月クラス：3人 【実施場所】御影にほんごプラザ（神戸市東灘区） 【受講者募集方法】 KICC のホームページ／SNS、チラシ配布（地域日本語教室、9 区の区役所、神戸市関連機関、児童館、教育機関、ハローワーク、外国人コミュニティの SNS、外国人雇用企業など） 【開始した月】10 月 【講師】KICC 登録日本語教師 3 人 【関係機関との連携】なし 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 4	【名称】有資格の日本語教師による夏期日本語教室 【開催日時】7/26～7/30 の毎日、8/2～8/4 の毎日、18：30～20：00 【開催場所】神戸市立丸山中学校西野分校（夜間中学校） 【実施時間数】計 12 時間 【受講者数】21 人 【具体的な実施内容】 ☆ レベル別に 3 クラス設定した。 ① A クラス：初級前半程度 〈目安となる日本語レベル〉 ・ひらがな、カタカナを学習中 ・既習文型は「～は～です」程度 〈目標〉 ・人の助けなしで自己紹介ができる。 〈メインテキスト〉 『できる日本語 初級』 〈学習者数〉4 名 ② B クラス初級中盤程度 〈目安となる日本語レベル〉 ・テ形、ナイ形などを学習中のグループと、『みんなの日本語』の 40 課を学習中のグループが混在 ⇒タスクや話題中心の授業内容にすれば、個々の学習者へのサポートが可能である。 〈目標〉 ・自分自身のことだけではなく、家族や友達など身近な人についても説明できる。 ・提示された話題をもとに、相手とのやり取りができる。 「好きなこと」「私の生活」「病気・けが」 〈メインテキスト〉 『できる日本語 初級』 〈学習者数〉7 名

	③ Cクラス：初級後半以上 〈目安となる日本語レベル〉 ・生活での日本語を使える人が中心のクラスだが、修正すべき点も多いと考えられるため、 最終日の発表のためのフォーマルな日本語の習得を目指す。 〈目標〉 ・自分（グループ）が決めたテーマについてインターネットで調べたり、人に聞いたりして 発表の資料を作成できる。 ・発表のためのフォーマルな日本語を増やす。 〈メインテキスト〉 『できる日本語 初中級』 〈学習者数〉10名
その他の取組（取組7～14のうち、取り組んだものについて記載）	
取組7【名称】日本語学習推進拠点の拡充 ◇ 令和3年10月にKICCの本部を神戸市中央区から神戸市長田区に移転し、新たに中央区に「三宮にほんごプラザ」、東灘区に「御影にほんごプラザ」を新設し、3拠点で日本語学習支援を展開。 取組8【名称】学習評価のためのツール作成 【作成メンバー】 ◇ 大河内瞳（大阪樟蔭女子大学講師） ◇ 岡本絹子（立命館大学非常勤講師） ◇ 下山知子（神戸市教育委員会学校教育課こども日本語サポートひろば） ◇ 尾形文（神戸市における地域日本語教育体制整備事業総括コーディネーター兼地域日本語教育コーディネーター） 【作成のための会議】13回（4/9、8/13、8/20、9/16、9/17、10/6、10/27、11/24、12/8、1/19、1/26、2/15、2/16）、計26時間 【具体的な実施内容】 5人の作成メンバーで13回の作成会議を行い、以下について話し合い、作成する評価ツールについて共通の認識を形成した。 ①本事業で評価ツールを作成する理由 ②評価ツールの目的・対象者・背景となる理論 ③毎回各自が参考文献をまとめたものを持参し、それをもとに意見を出し合った。 【参考文献】 ・金田智子（2016）「学習につながる自己評価」宇佐美洋編『評価を持って街に出よう』くろしお出版	

pp. 140-154

- ・ギャロルド・マレー（2011）「セルフアクセス言語学習」『学習者オートノミー 日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房、pp. 123
- ・野元弘幸(2021) Fundação Japão em São Paulo 第1回ウェビナー「パウロ・フレイレの思想と言語教育」<https://www.youtube.com/watch?v=0m1ZXvje2WY>
- ・パウロ・フレイレ 三砂ちずる訳（2011）『新訳新抑圧者の教育学』亜紀書房
- ・真嶋潤子（2010）「CEFRにおける評価とアセスメント」『アセスメントと日本語教育—新しい評価の理論と実践—』くろしお出版 pp. 19-43
- ・マズロー・A.H.（1987）『改訂新版 人間性の心理学 モチベーションとパーソナリティ』
- ・マルカム・S・ノールズ（2005）渡邊洋子監訳『学習者と教育者のための自己主導型学習ガイドーともに創る学習のすすめ』明石書店
- ・Juliano Zeggio Martinez（2021）Fundação Japão em São Paul 第2回ウェビナー「パウロ・フレイレ

と対話する言語教育」FJSP 第2回ウェビナー「パウロ・フレイレと対話する言語教育」－
[YouTube](#)

- ④評価ツールの詳細な内容については、完成まで公表できないので、ここまでの報告とする。
- ⑤既存の評価ツール（青木（2006）『日本語ポートフォリオ』、文化庁の『ポートフォリオ』など）は、継続して使用しにくいという学習者やボランティアからの声を耳にすることがある。我々は学習者が生涯をととして学習するための自律的な学習能力を育成するために本ツールを作成しようと考えている。そのためには、長期にわたり活用できるツールを作成する必要があると考え、青木（2006）や文化庁のポートフォリオの使いにくい点を改善することが、本ツールを作成する第一の関門だった。そこに時間がかかったため、今年度の完成には至らなかった。

取組 9 【名称】地域住民に向けた多文化共生の取組

以下を予定していたが、1月27日に兵庫県全域にまん延防止等重点措置が事項されたため、次年度の6月に延期することとした。

【実施箇所数】1箇所（神戸市北区）

【実施時間数】計3時間

【具体的な実施内容】

- ① 在住外国人が地域に住んでいる背景
- ② 「やさしい日本語」研修
- ③ 地域に暮らす外国人との交流

取組 10 【名称】企業への日本語教師紹介

【実施箇所数】2社（うち1社は令和2年度からの継続）

【実施開始日時】

当初、2月26日（土）から、毎週土曜日の19時～21時で実施する予定だったが、1月27日に兵庫県にま

ん延防止等重点措置が実施されたため、3月26日から開始することになった。

【学習予定者数】5名

【具体的な実施内容】

◇ メイン教材

『はたらくための日本語』一般財団法人日本語国際協力センター（JICE）2019

◇ メイン教材用の Can-do チェックリストを作成し、事前に学習者の自己評価によるレベルチェックを行った。

取組 12【神戸市における地域日本語教育の基本方針の作成】

これまで3か年にわたる本事業の成果を踏まえたものとして、神戸市の目指す地域日本語教育体制における各主体の責務・役割分担を既定し、構築に向けた取組の方向性を定める基本方針令和3年度内に策定することを目標に、神戸市国際課・KICC 間で方針案の策定に向けた内部打ち合わせを進めてきた。

しかし、本事業を進めるなかで、学習者の自律的な日本語学習をサポートするためのシステムの構築・浸透や、教室ごとにバラつきが見られる地域日本語教室の教育水準及び神戸市との連携関係の向上といった新たな取組課題が出てきた。

そのため、本事業を5か年計画に延長して新たな課題への対応を進めるとともに、そうした対応策も基本方針に盛り込むため、令和3年度内の方針策定を一旦取り止め、令和4年度における本事業の目標に引き継ぐこととした。

2-2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

（取組15）市区町村を支援して実施する日本語教育

（取組16）取組15以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

3. 効果

（1）令和3年度の実施目標に対する評価

①令和3年度の実施目標（年度当初に設定した目標を再掲）

本事業の主役は日本語学習を必要とする人であることを忘れることなく、彼ら、彼女らがより良い日本語学習の機会にたどり着き、質の高い日本語学習ができるよう以下の目標を設定する。また、地域で日本語を学ぶ人の中には日本語教室などでの学習を継続したくても家族や仕事の都合で断念せざるを得ない人たちも少なくない。途中で学習機関を離れた場合でも、学習者が自分の生活に合わせて日本語学習をするための能力を育むことも日本語支援の役割である。本事業では、適切な役割分担の下に地域日本語教室とも連携して、さまざまな日本語学習希望者に対応できる利便性・柔軟性の高い地域日本語教育体制を構築すると同時に、学習者が一人でも日本語学習ができるよう自己主導型学習を推進する。また、3ヶ年計画の3年目ということで、本事業が持続するための取り組みとして基本方針を作成する。

- (1) この2年間で築いたネットワークを活用し潜在的日本語学習者の掘り起こしをさらに進める。
- (2) 以下の機能をもつ学習評価のツールを作成する。
 - ① 学習者が日本語学習において新たな自己の価値を発見し、その後の学習を継続するモチベーションとなるもの。
 - ② 自己主導型学習を促進するための仕掛け
 - ③ 学習記録（別の学習機関に移った場合にもそれまでの学習履歴がわかる）
- (3) 様々な日本語学習者に対応する利便性・柔軟性の高い日本語学習環境・プログラムを提供する。
- (4) 神戸市内に自己主導型学習を広める
- (5) 日本語教育人材を育てる
- (6) 神戸市における地域日本語教育を持続可能なものにするための基本方針を作成する。

②達成状況

学習者を中心に考えて、多様な学習機会の拡充に努めることや学習者の自律学習を支える考え方を日本語学習や指導者養成に取り入れた点で、設定した目標からそれることなく事業が進んだ。個別の目標に対する達成状況は以下のとおりである。

- (1) 潜在的学習者の掘り起こしが進んだかどうかは、初級クラスの学習者数の増加を一つの目安としている。今年度は前年度より 336 人増加したことから、潜在的学習者の掘り起こしにつながったと考える。
- (2) 学習評価の作成については、学習計画や学習履歴を記入することも考えているので、ポートフォリオに近いものを作成することになる。そのためには、既存の『日本語ポートフォリオ』（青木、2006）や文化庁のポートフォリオを批判的に捉え、新たなアイデアが必要になる。既存のものを越えることは非常に困難だったが、全 13 回の評価ツール作成会議を経て、さまざまな参考文献や作成会議メンバーの知見を持ち寄ることで、神戸市の評価ツールとしての理論背景や内容の一部を作成することができた。次年度は評価ツール内の各項目を作成し、初級クラスの学習者や教師、または地域日本語教室のボランティアたちに試行してもらい、改訂後、完成を目指す。
- (3) 学習者の学習目的の多様性や生活スタイルに応じた学習環境の整備という点については、コロナ禍により令和 2 年度に新設したオンラインクラスを今年度も継続し、学習者数の増加に伴いクラス数も増やしたことがあげられる。また、これまでは神戸市の中央に設置していた日本語学習の場所に加えて、今年度は西と東にも新たに日本語学習の場所を設置し、日本語学習希望者が学習機会に辿りやすくなった。
また、カリキュラムに関しては、主教材を固定してはいるものの、各クラスに参加している学習者の属性に合った話題などを展開するように担当教師たちに伝えている。
- (4) 自己主導型学習を広めることについては、ボランティア養成講座や地域型メルマガで継続的に発信している。また、初級クラスの講師たちにも自己主導型学習の参考文献などを共有し、授業で実践するよう徹底している。
- (5) 本事業では、ボランティア養成講座や研修会だけを人材育成の場とするのではなく、多様な方法で人

材の育成に取り組んでいる。今年度は、初級クラスの登録講師たちに対しては年5回講師ミーティングを行い授業に関する振り返りや情報交換をした。地域日本語教室のボランティアには、養成講座や地域型メルマガの配信、相談への対応をした。

(6) 事業を進めるなかで出てきた新たな課題に対応した方針とすべく、令和3年度内での策定を見送ったため、未達成。

(2) 個別の取組に対する評価

① 定量評価

- ・総合調整会議：前年度（2）回 当年度（2）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（1）人 当年度（1）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（1）人 当年度（1）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：前年度（4）回（3箇所） 当年度（7）回（5箇所）
- ・実施した日本語教室：前年度（204）回（4箇所） 当年度（548）回（4箇所）

①-2 実施計画書において設定した目標に対する定量評価

- ・総合調整会議は予定していた回数を実施することができた。
- ・総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターは、今年度も兼務ではあったが予定していたとおりの人数を設置した。
- ・日本語教育人材に対する養成講座は、コロナ禍の影響により入門講座は開催できなかったが、予定していた6講座のうちの5講座を実施することができた。
- ・有資格の日本語教師による初級クラスは実施拠点を前年の1ヶ所から3カ所に増やした。学習者数は見込んでいた650人ことには届かなかったものの、前年度より337人多い528人と飛躍的な増加を遂げた。

② 定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

- 今年度、初級クラスの広報媒体として、いくつかの企業が加わった。これは、初級クラスの受講者からその所属する企業に情報が広まったケースと、昨年度本事業で実施した「市内日本語学習推進に関する連絡会議」に参加した経済団体などから広がったケースとがある。
- 昨年度1つの企業での日本語教室を開始したが、今年度も1つの企業からの依頼があり、開催することになった。当初2月初旬に開催予定だったが、コロナの影響を受け、3月26日に延期された。企業同士の会合もあるということなので、今後は口コミも期待できそうである。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

- 今年度初めての取組である市民に対する多文化共生のための研修会を実施するにあたり、神戸市北区の民生委員の集会につなげることができた。この企画に関しては、地域日本語教育の代表者がコーディネートしてくれた。コロナの感染が治まらなかったため、企画は来年度に持ち越すことになったが、パイロット的な企画ができたことで、今後、動きやすくなると考えている。

(iii) どのような体制を構築できたか

○初年度より日本人住民への多文化共生の取組を考えていたが、第1弾に協力してくれる団体を見つけれずにいた。そこで、神戸市内の1つの日本語教室の代表に相談したところ、彼女が計画したが実践に至らなかった企画があるということで、お互いが協力し合うことになった。今回の試みを参考に、今後は、日本語教室に橋渡しをしてもらい、その地域の日本人住民への多文化共生のための研修会などを開催する可能性が生まれた。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

○事業成果については、兵庫県国際交流協会のシンポジウム、神戸市内日本語教室連絡会議、出前講座などで、各取組について発信した。また、神戸市の期間である神戸市海外ビジネスセンターのセミナーにおいても、企業への日本語教師紹介を兼ねて、KICCの取組を周知した。

○本事業に関わっていた職員が異動した場合も、異動先で初級クラスの広報などを依頼することもある。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

○初級クラスの講師の育成

初級クラスを担当する講師を登録制にしているのだが、登録している講師のほとんどが、日本語学校の留学生を対象に大量生産型の文型積み上げの授業しかしたことがないため、生活者としての学習者への即興的な授業ができないことが明らかになった。これは、前年度からの課題であるが、今年度学習者数の増加に伴い新たに登録講師を増員した際にも同じ問題が発生した。

今年度も前年度行ったように、講師ミーティングを開催し、主教材の『まるごと』の使い方の共有や、コーディネーターによる自律学習に関する話や、他機関で行われる講師研修の情報提供など、いろいろなリソースを提供してきた。その結果、少しずつではあるが、生活者が学習とはどういうことかとか、教師が中心になり教えることだけが授業ではないということを理解する講師が増えてきたことが、講師ミーティングなどでの講師たちからの話からうかがえる。

(2) 今後の展望

○これまで外国人住民支援機関や帰属組織を対象に、神戸市の地域日本語教育を支えるネットワークづくりを進めてきたが、そうした既存のネットワークにはつながっていない外国人住民もおり、特に身近に支援情報を教えてくれる日本人がいない外国人住民の方はまだ本事業につながっていない場合が多いことが新たに見えてきたため、引き続き市内外国人雇用企業との関係づくりを進めるとともに、飲食店や宗教施設といった外国人住民にゆかりのある施設などとの関係づくりにも着手し、外国人住民を日本語学習支援につなげるためのネットワークの充実に努める。

また、事業を進める中で、初級日本語クラス修了後の学習者の地域日本語教室への引き渡しが進んでおらず、スムーズに移行できるための仕組みの検討、および、教室ごとにバラつきが見られる教育水準・方針

の向上に向けた取組が必要であるという新たな課題を踏まえつつ、本事業で構築した地域日本語教育体制を継続させていくための仕組みを検討し、関係機関間での合意・定着を図るため、本市における持続可能な地域日本語教育体制の在り方を基本方針として整理し、周知を図っていく。

さらに、多文化共生社会の実現に向けては、外国人住民に日本語学習機会を提供する一方、受入側である地域住民に対するやさしい日本語の普及に向けた取り組みを実施する。

○神戸市内には、現在活動を確認している日本語教室が 23 団体あるが、その多くが市の南側に集中しているため、今後は、それ以外の地域での日本語教室の立ち上げについてもボランティアたちと協力しながら考えていく。

○それぞれの学習者が自分のライフコースに合わせた学習ができる体制を整えるために、その時代に合った、学習の場、学習ツール、評価ツールなどを考え続けていく。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
4 - 1	第 4 回 神戸市内日本語教室連絡会議（ハイブリッド開催）



5-1	ブラッシュアップ講座 コミュニケーションってなに？	
6-1	KICC 初級クラス 12月クラス（三宮にほんごプラザ）	

【参考資料一覧】

取組番号	資料名	HP への掲載
5-1	① 地域日本語教室コーディネーター研修チラシ ② 第1回日本語ボランティアブラッシュアップ講座チラシ コミュニケーションってなに？ ③ 第2回日本語ボランティアブラッシュアップ講座チラシ 学校からのお便りを「やさしい日本語」にしよう！	可
5-1	出前講座受講者アンケート	可

6－1	初級日本語クラスチラシ	可
6－1	初級日本語クラス授業終了アンケート	可
10	企業への日本語教師紹介事業チラシ	可